

教会短信

牧師 間瀬 善彦

「マリアは月が満ちて、初めての子を産み、布にくるんで飼い葉桶に寝かせた。宿屋には彼らの泊まる場所がなかったからである」(ルカ福音書2章6-7節)。

聖書が語る救い主イエスの誕生は、神の御子には似つかわしくないひそやかな出来事でした。また、世の多くの人に注目されることもありませんでした。しかも、産まれたのは、宿屋ではなく、粗末な家畜小屋だったのです。その頃、ベツレヘムの町は人口調査のために人がごった返していました。それで、彼らの泊まる場所がなかったのです。家畜の臭いがプンプン漂う、飼い葉桶をベッドに、衛生的とは言えないような場所で、救い主イエスは誕生されたのです。その誕生の有様は、まさに貧しさの極みです。

多くの方は貧しいよりも豊かな方がいいと考えることでしょう。将来のために、と一生懸命蓄えようとします。将来に備えることは決して間違ったことではありません。しかし、もし一瞬にして命が絶たれたらどうでしょうか。その蓄えはすべて無駄に終わってしまいます。貧しい国の人ほど分かち合うことを知っているそうです。わずかなものを皆で分かち合うのです。反対に豊かな国の人はどうでしょうか。もっと欲しいと思って貧しい国の人のもので欲しがってはいないでしょうか。

マザー・テレサの言葉を思い出します。「貧困をつくるのは神ではなく、私たち人間です。私たちが分かち合わないからです」。

わたしたちも分かち合うことを学びたいと思います。貧しさのそばに救い主イエスが必ずいてくださいます。

クリスマスのご案内

・クリスマス礼拝

12月23日(日) 10:30~

・キャンドルサービス

12月24日(月) 18:30~



新年2008年のご案内

・元旦礼拝

1月1日(火) 11:00~

・新年礼拝

1月6日(日) 10:30~

クリスマスの思い出

もうすぐ、クリスマス！ この時期、雑誌やインターネットを見ていると、クリスマスディナーを紹介しているお店やイルミネーションの有名スポットなど、クリスマスに関する多くの記事が目飛び込んできます。

私は、小さい頃から教会へ行っていたので、毎年12月24日のクリスマスイヴの夜には、家族と一緒に教会へ出かけ、イヴ礼拝（キャンドル・サービス）に出席していました。真っ暗な礼拝堂でオルガンの静かな音色が響く中、ろうそくの火が一本ずつ灯っていき、幻想的な空間の中で、賛美歌を歌ったり、聖歌隊やハンドベルの演奏を聴いたり、聖書を読んだり、いつもの礼拝と違う形でクリスマスをお祝いするのです。礼拝後には、みんなでおしゃべりしながらクリスマスケーキを食べ、その後、駅前や教会員の家へ出向き、そこで賛美歌（きよしこの夜、もろびとこぞりてなど）を歌うのです。吐く息が白く、身震いしてしまう冷たい空気の中、ペンライトの光を頼りに、“ここにいるすべての人たちに神様からの祝福がありますように、メリークリスマス！”と心を込めて歌うと、寒い中でも温かい気持ちになっていたのを覚えています。そして20年が経つ今でも、クリスマスの過ごし方は変わっていません。ひとつ変わったものといえば、大人になって本当のクリスマスの意味を知ることができたことです。小さい頃は、ケーキがもらえる！とか、お友達に会える！とか、子供ながらの期待でウキウキ・ワクワクしていました。でも、今は異なった感情を持つようになりました。それは、私たちの罪を背負って十字架に架けられてしまうイエス・キリストが誕生した日だと知ったからです。「神は、その独り子をお与えになったほどに、この世を愛された」（ヨハネ：第3章16節）。イエスは、立派な宿ではなく、家畜小屋で生まれ、短い生涯を、社会的に弱い立場にある人や病気の人、異邦人などを救い続けられました。低き人を高く、高き人を低くされたのです。イエスが誕生した時、このうれしい知らせを一番最初に知ったのは、誰だったかご存知でしょうか？それは、当時の律法学者でもなく博士でもなく、身分の低い羊飼いなのです。このような偉大な方（イエス・キリスト）が誕生し、確かに存在していた事実を思うと、クリスマスを厳粛に受け止めざるを得ません。わたしには、おしゃべりに飾られたディナーやイルミネーション中心のクリスマスより、神聖な教会でイエス・キリストの誕生を祝うクリスマスの方がよほど美しく感じるのです。今年の12月24日は、教会で味わうことができる真のクリスマスを過ごされてみてはいかがでしょうか。きっと、皆さま方も、キャンドルライトが灯された教会の中で、美しい賛美歌に包まれる温かな時を過ごすことができるでしょう。

N. Y



【教会歳時記】

聖夜・クリスマス、そして、新年を迎える心

“きよしこの夜 星はひかり 救いのみ子は まぶねの中に……”

猛暑に喘いでいたと思ったら、早くも年の瀬、いきなり大雪の便りを聴く。

クリスマスとは？ある本にこんな記載がある。「ベツレヘムの馬小屋でマリアがイエスを生んだ夜のことだ。それは12月24日の夜おそく、25日の朝にかかる頃だったとされ、これがクリスマスのお祝いになっていることは衆知の通り。マリアがはたして神の精霊をうけてみごもったか、ヨセフの子だったか、それとも私生児だったか、それを論じる資格はない。イエスがどういう事情で生まれたかは、大した問題ではない。肝心なのは、イエスの一生の仕事であり、その一生をつらぬいた精神である。イエスの一生は、まことに人類の偉大な教師とするにふさわしい美しいものだった。イエスが生まれたことによって、人類の歴史は大きな変化をうけ、その精神はキリスト教となって、今日でも何億という人の心の中で生きて、カブよくはたらいている。……イエスという人の生涯が神々しいまでに立派だったことだ。この点でたしかにイエスは、神の子と呼ばれるにふさわしい人だった」。その意義が客観的によく書かれていると思う。

救い主・イエスの誕生の日であり、聖なる夜であり、全人類の輝かしい夜明けなのである。教会では、12月23日主の日の夜が、クリスマス礼拝となり、24日夕刻にイヴ礼拝と称し、クリスマス・キャンドルサービスを行い、街頭へキャロリングを行っている。教会のクリスマスは、ジングルベル鳴り響く商戦ではなく、「きよしこの夜」の静かな喜びの祝典である。

今年は30日が主の日となるので、もちろん、礼拝が行われることになっている。そして、大晦日、新年を迎える。2008年はどんな年になるであろうか。新年の祝詞交換は人の常であるが、教会では「元旦礼拝」を行い、新しい年の希望を語り合う教会学校をし、質素にして清麗な新年祝会を行っている。何はともあれ、キリスト教会におけるメインイベントは、クリスマス礼拝であり、主日礼拝である。厳粛にして、心通い合う祈りの会、交流こそ神に従うものの生き方である。一人でも多くの方、神を求めの方の参会を待望している。経堂教会の礼拝堂の壁には、次のような聖句が書かれている。

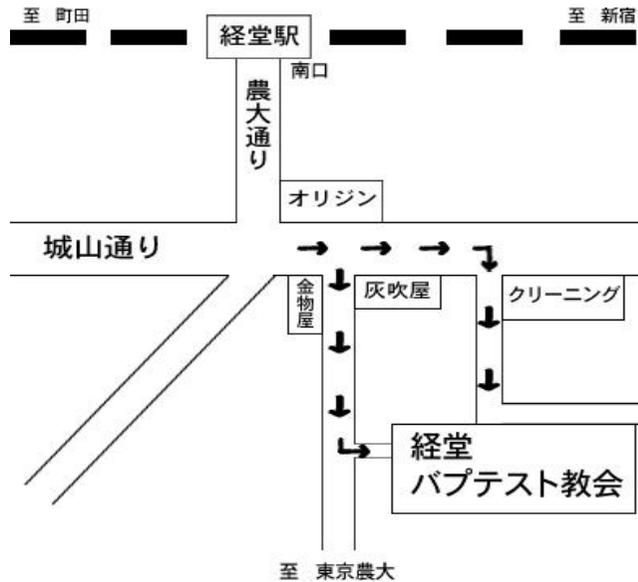
「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。あなたがたを休ませてあげよう」

(マタイ福音書 11:28)。

これこそ、イエス・キリストの愛の精神である。

集会案内

主日礼拝	日曜日	午前 10時30分～11時30分
教会学校	日曜日	午前 11時45分～12時30分
	青年科・成人科	
聖書を学ぶ会	火曜日	午後 1時 ～ 2時
聖書研究・祈祷会	水曜日	午後 7時30分～ 8時30分



経堂バプテスト教会

牧師 間瀬 善彦

〒156-0053 世田谷区桜1-64-30

TEL 03-3426-0071

当教会は、エホバの証人、モルモン教、統一協会とは一切関係ありません。